

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第6回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和6年3月25日(月) 午後6時から午後8時25分		
開催場所		現地出席とオンライン出席によるハイブリッド開催 (現地会場: 本庁舎第二別館3階 第三委員会室)		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	5人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 諮 問 「(仮称) 相模原市子育て世代応援条例」について 3 議 題 「(仮称) 次期相模原市子ども応援プラン」について 4 その他 (1) 令和6年度当初予算について (2) 社会的養育の強化に向けた取組について (3) 「さがみはら休日一時保育事業」における相模大野駅周辺の実施法人の決定について (4) 「幼児教育・保育の質の向上」に向けたモデル事業の実施について 5 閉 会		

## 議 事 の 要 旨

## 1 開 会

## 2 諮 問

「(仮称)相模原市子育て世代応援条例」について、市から会長に諮問し、内容について説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(押田委員) まず、条例の考え方のイメージについて確認したい。「企業」とあるのは、市内の企業と連携するという意味か。

(事務局) 企業だけではなく個人商店も含めて連携する意識を醸成していく意図である。具体的な事業はこれから検討する。

(押田委員) 承知した。スケジュールについても伺いたい。11月に「市議会12月定例会議」とあるが、12月の定例会議は11月にあるのか。

(事務局) 名称は「12月定例会議」であるが、11月下旬から始まることが通例であり、資料のような表現になっている。

(押田委員) 承知した。

(片山会長) 検討期間が短い。また、子ども・子育て会議にすでに諮問されている次期計画の検討を進めながら、条例についても検討することになる。委員の条例に対するイメージや子育て世代の方たちの意見をまとめていくものになると思う。

(石井委員) 市長の所信表明では、この条例は親を支援していくようなイメージであるが、どちらかというとその前に出てくる「夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指す」というイメージが強い。市長は子育て世帯の方が子どもを育てやすいような環境を作っていくことをイメージしているのか。

(事務局) 最終的に目指すのは、委員のお考えのとおりだと思う。保護者を支援することにより、保護者の自己肯定感や幸福感が高まり、それが子どもに伝わっていくと考えている。

(永保委員) 理念を条例にするというのは、それはそれで意味があるのかもしれないが、次期計画に位置付けたとしても、謳っているだけでは意味がない。具体的にどのように考えているのかということをもまずは伺いたい。また、今の話を聞いていると、「条例の考え方のイメージ」の図にあるように、矢印の先は子育て世代ではなくて子どもであるように聞こえる。子どもを中心に据えているのは、幼児教育・保育ガイドラインの考え方と一緒にある。理念が同じであれば、幼児教育・保育ガイドラインをそのまま条例に昇格させていくのもあり得るのではないか。

(事務局) 幼児教育・保育ガイドラインの冒頭では確かに、保育者・保護者・地域・

行政の四者に囲まれた中心に子どもがいる。もちろんこのガイドラインの考えを踏まえながら条例の中身を検討する。

(小泉委員) 条例の対象は「子育て世代」となっているが、資料を読むと「現にパパママである人」とあって、資料裏面では「子育てをしている」ということだが、対象はどこまでなのか。また、「条例の考え方のイメージ」の図からはアウトリーチするとか、応援するけれど本当は子育て世代が自立していて、地域とやり取りするとか、子育て世代の方々も入ってくることによって地域社会の中で繋がりができるようなそんなイメージもあるのかなと感じた。

(事務局) パパママの定義を含め、この条例における「子ども」等の定義についてはまた案をお示ししたい。

### 3 議 題

「(仮称)次期相模原市子ども応援プラン」について事務局から説明した後、3つのグループに分かれ、「子ども・子育て支援における課題」、「子ども・子育て支援で大切にしたいこと」をテーマにブレインストーミングを実施し、各グループの意見を共有した。

(Aチーム) 一番目多かったのは、「地域」に関する意見。地域で活動している委員が多く、「地域の中に温かい目がある」、「子どもたちが地域の一員として認められる」、「学校以外の繋がりが地域の中にあるといい」といった意見があった。また、「子どもの意見を大事にする」、「失敗が成長につながる」といったキーワードもあった。

(Bチーム) どんな子であっても受け入れられる社会をこれから作っていかねばいけないという意味で「多様性」がキーワードである。また、「親だけではなくみんなで育てるという機運の醸成」として、多世代が子どものために集う場所や、地域に無条件でいられる子どもの居場所、周囲が子どもを見る目が温かい、といったことも必要である。治安の良さや安心・安全、自然環境をより大事にという意味での「環境」、子どもの権利擁護が重要であるといった一方で、子どもの権利に遠慮しすぎて声をかけづらい世の中になっており、総合的に「人権」のことに考えた方がいいといった意見もあった。「手続きの簡略化」も重要である。

(Cチーム) 「子どもの目線」や「子どもとの対話」がキーワードであった。地域との繋がりといい場も必要等、いろいろな意見が出ているが、一番響いたのは、「どんな支援が必要かということを考えてときに、「100人いたら100通りの支援が必要」という意見だった。

(事務局) 計画書の18・19ページに、基本理念や施策体系を掲載している。今回はこの部分を作るためにブレインストーミングをしていただいた。今日いただ

いた意見を事務局で整理し、次回以降お示ししたい。

(片山会長) 委員から重要な言葉が出され、それらを基に理念を作っていく。理念は、条例や次期計画に反映していくものであり、実態が伴うよう取り組んでいくことが、この会議体に求められていることだと考えている。

引き続き事務局から、アンケート調査の結果概要、子ども・若者の意見反映の取組について、説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(片山会長) アンケートの回収率が伸びないというのは一つの課題で、検証する必要がある。また、意見反映の取組は、この手法を扱うことができるような年代を対象にすることになると思うが、年齢に偏りが出ないか。もっと低年齢の子どもでも意見がある。意見を聴けるような取組を考えていただきたい。

(朝比奈委員) 「アンケート結果、各種統計資料を提示した上でテーマを設定して意見を聴取する」とあるが、具体的にはどのようなテーマで意見聴取をしようと考えているのか。

(事務局) 今日のブレインストーミングのように、子どもたちが意見を設定しやすいテーマをこれから考えていきたい。

(朝比奈委員) では、どのような意見を抽出するため、あるいはどのような子どもたちの意見を政策に反映するためのテーマを設定しようとしているのか。

(事務局) 子どもたち自身が抱えている課題などをあぶり出したい。「自分たちがより生き生きと生活するにはどうすればいいか」や、日々の楽しいと思う瞬間・困りごとなどを捕捉したい。

(片山会長) 今日、大人である私たちはブレインストーミングで意見を出し合ったが、子どもたちの声を聞く機会はどこにあるのか。まずはこの会議でこれからの子ども応援プランを考えるために、子どもたちの声を聞くことをきちんと位置づけたほうが良い。テーマの検討にあたっては、委員の皆さんから関わっている子どもや地域の課題等を寄せていただければ、それがテーマになるのではないか。

(事務局) 今日のブレインストーミングの結果や、市民アンケートの結果を見ながら、テーマを設定していきたい。

(押田委員) 対象者は無作為抽出とのことだが、抽出する子ども・若者の人数の規模と年代の想定はあるか。

(事務局) 人数の規模は、数千人単位を考えている。年代については、他市の取組では小学校高学年から高校生というパターンが多い。ただし、小学校高学年の子と高校生の子が同じ掲示板でやり取りをするのは難しいと考えられるため、例えば小学生用、中高生用、大学生用といった形で複数の掲示板を用意することを考えている。

(押田委員) 意見聴取にあたっては、ファシリテーションが重要である。掲示板には議論が発散してしまうのではないかと。今日のようなブレインストーミング形式を含め、形式については、一度再検討いただいた方が良いのではないかと。

(事務局) こども家庭庁の「こども若者★いけんぷらす」という取組を参考にしたものである。誹謗中傷等が発生しないよう、適時職員が入って調整をしながら実施していると思うので、手法を学びながらやっていきたい。

(後藤委員) 掲示板方式だと1,000人にハガキを送ったとしても、参加率はものすごく低くなってしまっているのではないかと。著名人や子育てに関係する人に協力していただいて宣伝すると、若い世代を呼び込みやすくなるのではないかと。若い世代が集まる場を作り、ブレインストーミングなどができたら多くの意見が集まるのではないかと。

(事務局) アイデアをいただいたので検討させていただきたい。

(片山会長) 子どもにとって身近な学校の先生等がどう受け止めて、サポートされるかとても気になる場所である。インターネットリテラシーの問題もある。そういったことが学べるよう協働することも検討できれば良い。

(園田副会長) 回答率の話題に戻るが、調査票4の回答数が240で、前回踏襲で2,000通発出したので12.0パーセントということだが、市内の抽出条件に該当する人のうちの何パーセントぐらいか。データ処理をするときに、あまりに回答率が低いと、この結果が相模原市の意見を代表すると捉えて分析して良いのかが気に掛かる。

(事務局) 標準誤差がプラスマイナス5パーセント以内になるようにするためには、対象者の母数に関わらず400を確保する必要があるため、400を一つの基準にしている。

#### 4 その他

##### (1) 令和6年度当初予算について

令和6年度当初予算について、事務局から報告した。委員からの意見、質疑応答は特になし。

##### (2) 社会的養育の強化に向けた取組について

社会的養育の強化に向けた取組について、事務局から報告した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(片山会長) 今説明いただいた内容は、現行の子ども応援プランの中の基本目標で定められている取組に繋がるものの充実が図られていると理解してよろしいか。

(事務局) プランの中にも取組として書かれている。

(園田副会長) 児童心理治療施設については、相模原市は政令市であるためぜひ積極的に推進していただきたい。

(事務局) 児童心理治療施設は全国に53か所あるが、本市にはまだ設置がない。利用する必要がある子どもは他の自治体の施設を借りているが、課題が多いことからぜひ進めたいと考えている。

(3) 「さがみはら休日一時保育事業」における相模大野駅周辺の実施法人の決定について

「さがみはら休日一時保育事業」における相模大野駅周辺の実施法人の決定について、事務局から報告した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(片山会長) 設置場所が商業ビルの4階とのこと。子どもの命の安全を確保するための取組は当然なされていると思うが、市も改めて確認していただきたい。

(4) 「幼児教育・保育の質の向上」に向けたモデル事業の実施について

「幼児教育・保育の質の向上」に向けたモデル事業の実施について、事務局から報告した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(朝比奈委員) 現行のさがみはら子ども応援プランにおいて量の拡充を目標にし、取組を進めた結果、待機児童数がだいぶ落ち着いている。今後は量の拡充だけではなく質の向上を目指し、評価できないかと問いかけたことがきっかけで、検討会が始まった。ぜひこれを次期計画等にも位置付け、質の評価に活かしていただきたい。

## 5 閉 会

以 上

## 相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
あんざい しゅんいち 安西 俊一	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
いしい やすこ 石井 康子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
おしだ ゆうすけ 押田 裕輔	公募市民	出 席
かたやま ともこ ◎ 片山 知子	和泉短期大学児童福祉学科 特命教授	出 席
こいずみ いさむ 小泉 勇	相模原市立中学校長会	出 席
ごとう りょう 後藤 亮	公募市民	出 席
そのだ いわお ○ 園田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
たがわ つぐよ 田川 継世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
ながほ たかあき 永保 貴章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
のぐち かずよ 野口 和代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
ばば まゆみ 馬場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
はやさか あつし 早坂 淳史	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
ふせ あきよし 布施 昭愛	相模原商工会議所	出 席
みうら ともりのり 三浦 友則	相模原保育室連絡協議会	出 席

◎ 会長 ○ 副会長